



## A 国際ボランティア

講師：JICA 高知デスク 杉尾 智子

ブルキナファソとガーナの留学生をゲストに迎え、青年海外協力隊員としてスーダンとマラウイで活躍してきた二人と TICAD(アフリカ開発会議)をテーマに“より良い国際協力活動とは何か”を考えた。

- ① TICAD(アフリカ開発会議)、SDGs(持続可能な開発目標)とは？
- ② アフリカの現状と国際ボランティアの在り方
- ③ アフリカ人から見た好ましい国際協力とは？



高知県立高知国際中学校 ブレイク 未亜

自分が「貧しい」と思っていた国の人たちはみんな優しく温かい心をもって、物がなくても他の物で代用するなど、発想が自分にはないもので驚いた。根本解決につながる国際支援が必要だと思った。



高知県立高知南高等学校 東村 侑奈

海外での活動は、何かを渡したり教えたりするだけでなく、持続可能であるかを考える必要がある。困難も沢山あり、人との関わりも大変そうだが、その国のためにとても重要な活動をしていることが分かった。



高知県立山田高等学校 橋村 隼弥

僕の知らないアフリカの国を知ることができた。国際協力では、自分の考えていることだけでなく、相手の人の環境や、相手が何を求めているかなどを組み合わせて行動していくことが大切であると学んだ。



高知県立高知西高等学校 深見 萌子

色々なことに自分のアンテナをはり、たくさんの知識や情報を得ることが、また違った新しい見方を与えてくれて、様々な問題解決の Key となる。「知ること」の大切さを学んだ。



IPU・環太平洋大学 新川 真由

ファシリテータとして参加した。日本人がいなくても現地の人たちだけで持続可能な発展が可能となる支援が本当の国際支援だが、参加中学生がこのレベルの議論から始めたのを見て、新時代を感じた。



高知県 IYEO 評議員 日野 美久(福岡県在住)

二名のアフリカ人青年を迎えた。アフリカに馴染みのなかった高校生が、話が進むにつれてメモを取り、話し合いに積極的に参加するようになった。このような顔の見える国際交流の場がもっと広がってほしい。



## B 南米日系社会の今を考えよう

講師：JICA 高知デスク 廣瀬 留美子

JICA と高知県のパラグアイ日系研修員をゲストに迎え、南米日系社会の現状を学び、“よりよい国際協力とは何か”をテーマに日本と日系社会の交流と共生社会を考えた。

- ① あなたがもし海外移住するとして、移住地に持っていくものは何？
- ② 日系人が現地で日本語を学ぶ理由は何？
- ③ 日系社会での課題は何？それを解決していくためには？



最後の「地球の反対側にいる日系人のことを忘れないでください」という言葉を聞き、改めて日系人との関わりがあることを知った。自分たちの文化や伝統をもっと色んな人に知ってもらいたい。



高知県立高知西高等学校 小島 愛美香

パラグアイの日系人は日本文化を守るために日本語の勉強をしたりお祭りを開催したりと、日本人としてのアイデンティティが保たれていることを知った。実際にパラグアイに行き、日系社会を見てみたい。



高知県立追手前高等学校 岡田 彩央

英語圏とは違う文化や考え方を知り、価値観や国の状態の違いを身近で感じて、自分が他国のために何ができるのかを考えさせられた。パラグアイの方が日本語をとてもしっかりと話していたことが印象に残っている。



高知県立小津高等学校 濱田 咲良

高知からパラグアイへ移住した人の多さに驚いた。日系社会が抱える問題は、日本国内で起こっている問題と重なる部分があるので、どちらかを解決すれば双方の解決に繋がり、国同士の関係も深まると感じた。



#### 高知大学 山口 麗二

高知県出身の日系人がこんなにも多くパラグアイに住んでいることに驚いた。参加高校生の学習意識も高かった。イジメの問題ではどこの国もお互い大変だと思った。とにかくパラグアイに親近感がわいた。



#### 高知大学 佐伯 南

参加された二人の日系パラグアイ人は日本人であることに日本人よりも誇りを持っていた。遠く離れた高知県人の存在を忘れないためにも日系人をテーマにしたフォーラム分科会を継続していきたい。